

C X 週間展望 (7月25日~)

週間展望 (7/25~7/31)

~ WEEKLY FORECAST ~

調査課

菊川 弘之



PHOTO by KIKUKAWA

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願ひいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

目次（2022/7/25号）

■ 目次	・・・ P 2
■ 週間予定：米連邦公開市場委員会（FOMC）・米GDPが注目	・・・ P 3
■ 前週Review：イタリア政局不安も、パイプラインは再開	・・・ P 4
■ ドル円：米連邦公開市場委員会（FOMC）後の米金利動向に注目	・・・ P 5
■ 金：ユーロが、一番底を維持できるか否かが焦点	・・・ P 6
■ 白金：NY白金の800ドル割れ水準は、底値圏	・・・ P 7
■ ゴム：米中両国が揃って、景気減速	・・・ P 8
■ 穀物：ウクライナ穀物輸出再開合意も、オデッサに攻撃	・・・ P 9
■ 原油：米国の増産要請にサウジ応じず	・・・ P 10
□ 滣落率（年間・月間・週間）	・・・ P 11
□ フィラデルフィア連銀景気指数	・・・ P 11
□ ETF（金・白金）・EIA原油在庫	・・・ P 12
□ USDA生育進捗率・USDA作柄	・・・ P 13
□ 週間輸出成約高・期末在庫率	・・・ P 13
□ CFTC建玉明細- (ドル円・ユーロドル・NY金・NY白金) (NY原油・NYガソリン・シカゴ大豆・シカゴコーン)	・・・ P 14～15

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

C X 週間展望 (7月25日~)
【週間スケジュール(7月25日~7月31日)】

									1		2	
									日 日銀短観 中 財新製造業PMI 米 製造業PMI 米 ISM製造業景気指数			
	3	4		5	6		7	8	日 国際收支-経常収支 日 国際收支-貿易収支 米 就業統計	中 生産者物価指数 (PPI) 中 消費者物価指数 (CPI)		
日 参院選挙	10	11	日 機械受注	12	13		14	15	中 鈑工業生産 中 実質GDP:小売売上高 中 小売売上高 米 NY連銀製造業景気指数 米 ミシガン大学消費者信頼感指数 感指数確報値 ハインツ大統領サウジ訪問 (~16日) G20財務相・中央総裁銀行会議 (~16日)	16		
	17	18	米 対米証券投資 米 住宅着工件数 米 建設許可件数 ロシア・イラン・トルコ首脳会談	19	20		21	22	日 全国消費者物価指数 米 製造業PMI 米 サービス業PMI 米 総合PMI	23		
	24	25	独 Ifo景況感指数	26	27		28	29	ヨーロッパGDP 米 就業コスト指数 米 PCEデフレーター 米 ミシガン大学消費者信頼感指数 感指数確報値 新月	30		
中 製造業 PMI+B10:015	31											

今週の注目は、FOMC、米GDP後の米金利動向。米金利引き上げ（市場コンセンサスは0.75%）で、ドル高や金安が「知ったら終い」となるのか否かに注目したい。

また、ウクライナ産穀物の輸出動向にも注意。

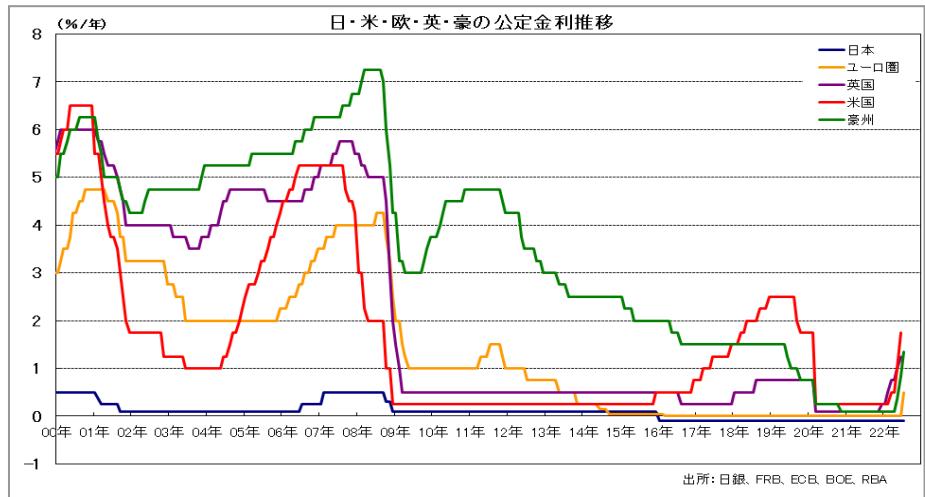
CX週間展望(7月25日~)

前週レビュー・トピックス

~イタリア政局不安も、パイプラインは再開~

調査課

菊川 弘之



【ユーロ、一旦は底打ち】

イタリアのセルジオ・マッタレッラ大統領は21日、**マリオ・ドラギ首相の辞表を受理**したと発表。20日の議会討論で、与党の一角を占めるポピュリズム(大衆迎合主義)政党「五つ星運動」はドラギ氏不支持を鮮明にした。これに他の与党2党が反発し、五つ星との政権継続を拒んだ。その後、上院(終身議員を除く定数315議席)で行われた信任投票は賛成95、反対38と賛成多数だったが、五つ星などは棄権した。事実上の不信任を突き付けられたドラギ氏は21日、大統領に辞表を提出した。伊メディアによると、大統領は数日中に解散総選挙を決断、**総選挙は9月25日に行われる公算**が大きいと報じている。

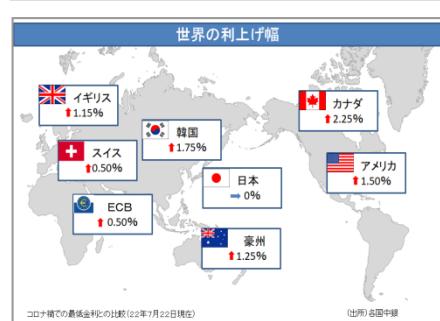


ECB大幅利上げ、パイプライン再開

その後、欧洲中央銀行(ECB)理事会が、11年振りに政策金利を0.5%引き上げた。(上段図)。記録的な物価高を受け、引き上げ幅は前回の理事会で示唆した0.25%や、**市場予想(0.25%)を上回る利上げ幅となり、ユーロ買い・ドル売り**が急速に進んだ。(右図中段参照)。



延期も懸念されていた「ノルドストリーム」も21日に予定通り、再開しユーロは一旦、底打ちは格好となっている。ただし、ウクライナ産穀物輸出合意が決まった翌日にオデッサ港が攻撃されており、ユーロの戻り売り圧力を確認したい。



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

CX週間展望(7月25日~)

ドル円(¥EN)

～米連邦公開市場委員会(FOMC)後の米金利動向に注目～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

前週レポートで『**RSIは逆行現象**で切り下がっており(上図チャート)、**米金利も頭打ち**となっている』としたが、フィラデルフィア連銀景況指数(P11下段左図)、米新規失業保険申請件数、米景気先行指標などの弱気に続き、米購買担当者景気指数(PMI)は総合が47.5と、2年2ヶ月ぶりの低水準となった(右図中段)。これらを受けて**米債券市場で長期金利が大きく低下**し、5月以来の低水準を付けた事で、ドル円は下値試しの流れとなっている。



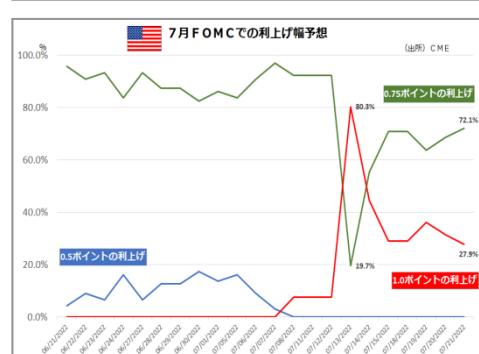
長期金利低下

欧洲中央銀行(ECB)理事会が、11年振りに政策金利を0.5%引き上げたと事で、ユーロ買い・ドル売りとなり、ドル円にも影響した。



弱気な米マクロ経済指標が増える中、7月FOMCの1.0%利上げ観測は後退(右図下段)。**ウクライナ産穀物の輸出再開が合意され小麦が反落、原油も景気後退観測の高まりを嫌気して調整含みの展開**となっている。

声明やパウエルFRB議長会見で、今後の**積極利上げ姿勢が示されるか否かに注目**。ドル円は135円の攻防が焦点。明確に割り込むと5円レンジが切り下がる。



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

CX週間展望(7月25日~)

金 (GOLD)

~ユーロが、一番底を維持できるか否かが焦点~

調査課

菊川 弘之

【今週見通し・戦略】



欧洲中央銀行(ECB)理事会が、11年振りに政策金利を0.5%引き上げた。記録的な物価高を受け、引き上げ幅は前回の理事会で示唆した0.25%や、市場予想(0.25%)を上回る利上げ幅となり、**ユーロ買い・ドル売りが急速に進み、金も買い戻されて急伸した。**

足元は米マクロ経済指標の悪化で、7月FOMCでの1%の利上げ観測は後退。0.75%の利上げがコンセンサスとなっている。FOMCでの1%利上げを嫌気した流れは、**1700ドル割れの安値で、かなりの部分、織り込まれた**と考えて良いだろう。

先物市場では米景気減速懸念から、来年の利下げを織り込む動きとなっており、7月FOMCでの利上げで、金相場は「知ったら終い」の反応を見せそうだ。(右下段図参照)。



ユーロが一番底を維持できるか否か

ただし、ウクライナ軍は23日、黒海に面した南部オデッサの商業港がロシア軍のミサイル攻撃を受けたと発表。両国はロシアの黒海封鎖でウクライナ産穀物の輸出が滞っている問題で、22日に輸出再開に向けた合意文書に署名したばかりだった。国連のグテレス事務総長は攻撃を非難し、合意の「完全な履行」を求める声明を出した。ロシア外務省は、オデッサ港の軍事インフラを破壊したと攻撃を認める一方、穀物輸出に関する合意には反していないとの立場を示している。

また、ロシアと欧州を結ぶ主要ガスパイpline「ノルドストリーム1」は、21日に再開したが、一部で懸念されていた点検期間の延長はなかったが、**流量は輸送能力の40%**となっている。これは、欧州諸国が、冬季に向けて十分なガス確保にお苦慮することを意味する。週明けの**ユーロが、一番底を維持できるか否かが焦点**。維持できれば、金の底固めシナリオに変化は出ない。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

CX週間展望(7月25日~)

白金 (Platinum)

~NY白金の800ドル割れ水準は、底値圏~

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

「白金一金」の鞘は、「金売り・白金買い」が再開。%Bのクロスを伴って上放れた格好で、順張り型のバンドウォーターク形成となるパターンだが、再度、中心線(21MA)を割り込んでくると、ダブルトップ完成から「金買い・白金売り」となる可能性も秘めており、**中心線の攻防が焦点**。(右図チャート)。

7月FOMCでは、0.75%の利上げが予想される中、1.0%の大幅利上げが見送られるとの観測からダブルボトムを形成している**NYダウがネックライン(右図下段チャート緑線)**を維持できるか否かが焦点。

原油・穀物市場が調整含みの動きとなる中、FOMCで利上げを嫌気した株安の流れが「知ったら終い」となるのか?、それともロシア-ウクライナ停戦観測の後退で、ユーロ売りが再開し、株安が再開するのかを見極める週となりそうだ。



NY白金は、支持線だった900ドルを維持できず800ドルを試す流れだが、過去、**NY白金の800ドル割れ水準は底値圏**として買い拾われており、同水準への下落があった場合は、結果として中朝的な買い場を提供することになると見る。7月のNY白金の月間騰落率は、買い優勢な時間帯(32戦19勝13敗)。

鉱山会社の賃金交渉の行方も注意。鉱山ストライキとなれば、**電力不足と共に供給不安が支援要因になる可能性**も出てくる。

欧州連合(EU)はブリュッセルで開催された外交官会議で、ウクライナに侵攻しているロシアへの制裁第7弾を21日に発効した。ロシアによる報復制裁の動きが強まれば、**パラジウム主導で動意付く可能性**にも注意したい。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

CX週間展望(7月25日~)

ゴム (RSS 3号)

～米中両国が揃って、景気減速が確認～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

上海ゴムは、一番底候補(7/15安値)を割り込み、週末にかけて下げ加速。改めて1番底を試す流れ。

JPXゴムは、円高+上海ゴム安で追随安となった。米国のリセッション(景気減速)突入懸念に加え、中国の景気減速懸念も継続している。

米・中景気減速

4～6月期国内総生産(GDP)は、実質で前年同期比0.4%増となり、1～3月期の4.8%増から失速、**中国政府が2022年の成長率目標としている5.5%の達成は厳しい状況**となっている(右上図)。李克強首相は19日、景気回復の足場はまだしっかりしておらず、経済全般を安定させるためには「骨身を惜しまぬ」努力が必要だと述べ、**過度な景気刺激策に慎重重姿勢**を示し、成長目標の下振れ容認する発言をしたことで失望売りもあつたとみられる。



バイデン米大統領とサウジアラビアのムハンマド皇太子らとの会談で原油増産についてコミットが得られなかつたことで、ゴムと相関の高い原油は反発したが、中国と米国、**世界第1位と第2位の天然ゴム消費国が揃って、景気の減速が確認**されており、戻りは売られる展開に。

懸念されていた欧州とロシアを結ぶパイプライン「ノルドストリーム」も、予定通り21日に再開された。ただし、21日の流量は輸送能力の40%となっており、この水準が続くようだと、株価の暴落がなければ、ゴムと相関の高い原油相場の下値は限定的となる可能性も。



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

CX週間展望(7月25日~)

穀物（大豆・コーン）

～ウクライナ穀物輸出再開合意も、オデッサに攻撃～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

**農務省需給報告
を受けて急落**

シカゴ大豆は調整継続。米産地では一部で土壌水分の乾燥が見られているものの、今後5日間には25~50ミリ程度の雨量を伴う降雨になると予測されているほか、最終週も平年を上回る雨量が見込まれていることで、乾燥に対する懸念は後退している。

また、ウクライナの穀物輸出に関し、ロシア、ウクライナ、国連、トルコによる4者で会談が行われ、22日には最終文書に署名が行われた。ウクライナからの油糧種子の輸出再開観測は大豆にとって重石となった。

一方、シカゴコーンは、作柄改善は見られないが、米中西部産地の降雨予報から高温乾燥懸念が後退したことや、ウクライナの穀物輸出再開観測が弱材料視された。17日時点での作柄報告によると、「良」以上が64%で先週から横ばいながら、「劣」以下は11%となり、前週の10%から1ポイントの悪化を示した。

米農務省(USDA)需給報告によると、22/23年度のイールド(単収)見通しは昨年度(177Bu)とならび、過去最多を維持予想。需給報告は7月1日時点での予測である。7月に作柄は悪化している。作柄悪化のなか、8月12日に発表される農務省需給報告で生産高、期末在庫率が下方修正される可能性もある。

今年のプロファーマの現地視察のクロップツアーは8月22日から25日の予定で実施される予定。この頃にはコーンの生育は最終段階になり、生産見通しが固まってくる。「ドウ」のステージを順調に乗り切ると、実ができ始め、産地の天候の影響を受けにくくなる。(P13参照)

一方、大豆に関しては、コーンよりも1ヶ月遅れで、8月の天候次第で、生産高が変化していく。

小麦に関しては、**ウクライナ産輸出交渉が合意**され、ゼレンスキーオバマ大統領は22日夜、約100億ドル(約1兆3600億円)相当の穀物を輸出できると述べたが、23日、黒海に面した南部**オデッサの商業港がロシア軍のミサイル攻撃を受けた**とウクライナが発表した。ウクライナ産穀物の輸出動向次第では急速な切り返しもある為、要注意。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

CX週間展望(7月25日~)

原油(OIL)

~米国の増産要請にサウジ応じず~

調査課

菊川 弘之

【今週見通し・戦略】



注目のバイデン大統領とムハンマド皇太子(MBS)の会談が終わった。サウジアラビアのアдельアルジュベイル外相は「石油に関する合意ではなく、サウジアラビアとOPEC諸国は<ヒスチリー>や<政治>ではなく、<市場>に基づいて決定を下す。」と述べた。ホワイトハウスは、バイデン大統領は、皇太子の指示で殺害された新聞記者(カショギ氏)に関して、人権問題を主張、正義を貫いたように発表したが、このような発表をすればサウジが石油増産に応じるはずがなく、**増産要請が空振りに終わった**ため、中間選挙に向けた**手ぶらでの帰国の言い訳**と考えた方が筋が通るだろう。CNBCが実施した世論調査では、バイデン大統領の支持率は4月から2ポイント下落し36%となった。

2020年4月に合意した「OPECプラス」の大幅協調減産は、8月末に終わる。**9月以降の生産方針について、次回「OPECプラス」会合(8/3)で協議する予定**だが、そもそも「余剰生産能力」がない状態だ。

**サウジ・UAE共に
増産余力は限定的**

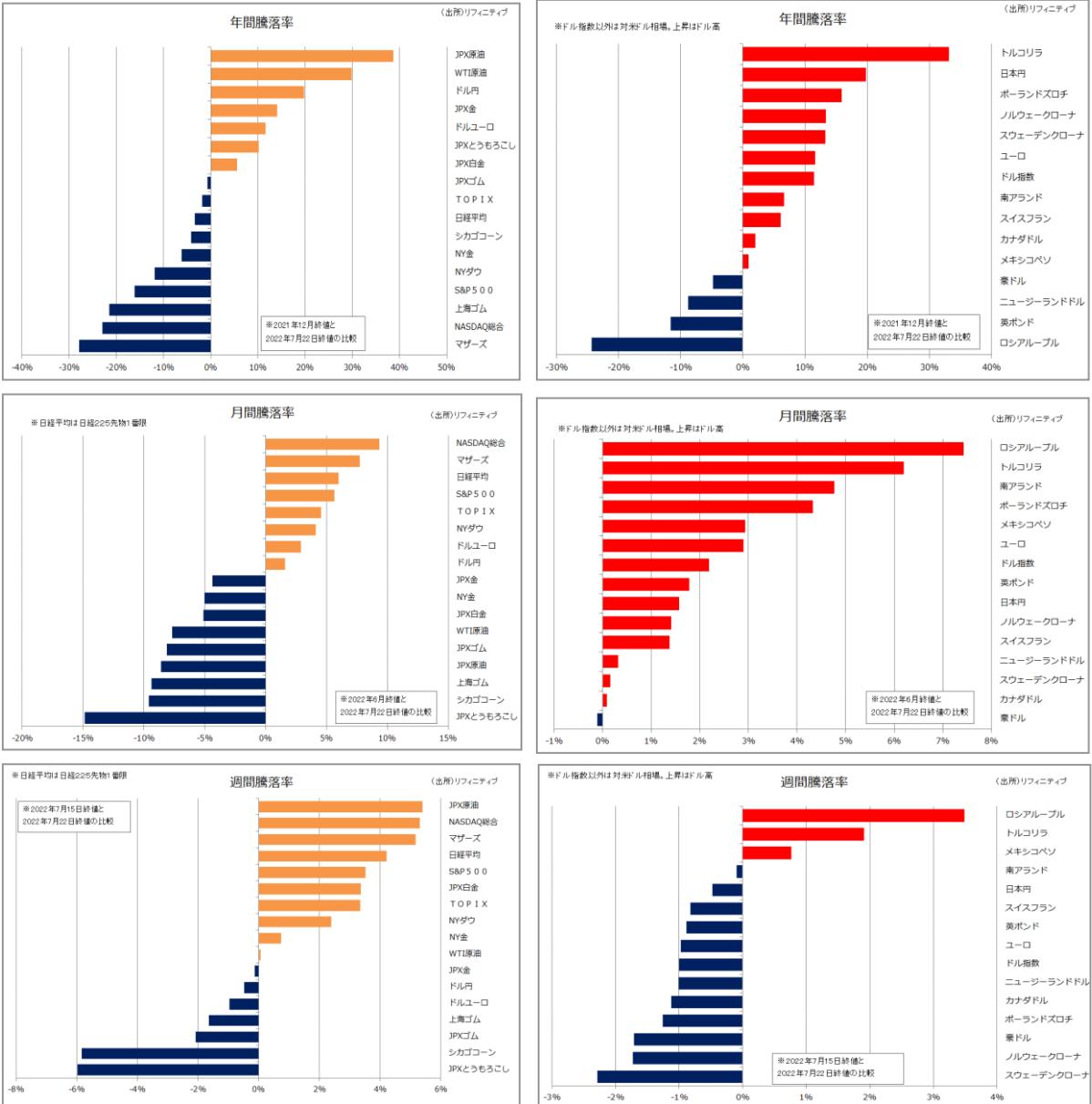
OPECプラスは生産割当を段階的に増やすことで大規模減産の解消を進めてきたが、実際には計画通りには生産できていない。長年の投資不足などにより、ナイジェリア・アンゴラなどで生産能力自体が低下しているためだ。サウジアラビアとUAEは増産余地があると考えられているが、8月の生産割当はサウジアラビアが日量1,100.4万バレル、UAEが同317.9万バレルで、**既に両国とも、過去最大生産量に近づいている**。

ロシアと欧州を結ぶ主要ガスパイpline「ノルドストリーム1」は、21日に再開した。一部で懸念されていた点検期間の延長はなかったが、**流量は輸送能力の40%**となっている。これは、欧州諸国が、冬季に向けて十分なガス確保にお苦慮することを意味する。国際エネルギー機関(IEA)月報では、供給が不足する一方でリセッション(景気後退)の可能性もあり、**世界の石油市場は「綱渡り」状態**にあるとの見解を示している。国際エネルギー機関(IEA)は18日、欧州に対してガスの消費を抑えるよう警告。ロシアへのエネルギー依存の高い欧州のダメージは大きい。(P11右下段図参照)。

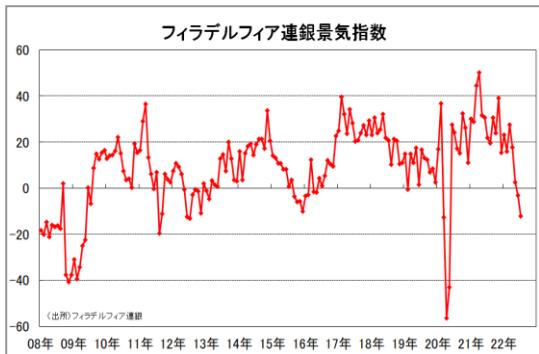
ウクライナ産穀物輸出が合意されたものの、23日にはオデッサ港への攻撃が行われており、ロシア・ウクライナの停戦合意期待は大きく後退。景気後退懸念による米株価暴落がなければ、原油相場の高値止まりが続きそうだ。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

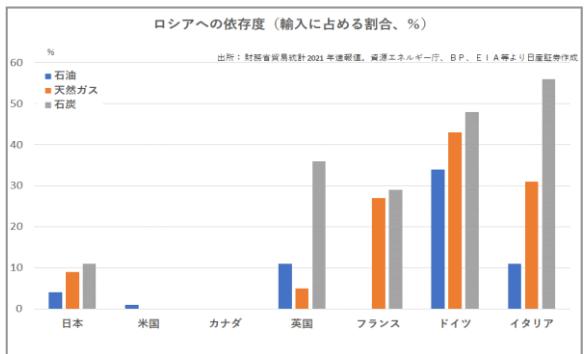
【騰落率(年間・月間・週間)】



【フィラデルフィア連銀景気指数】



【ロシアへのエネルギー依存度】



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【金・白金ETF】

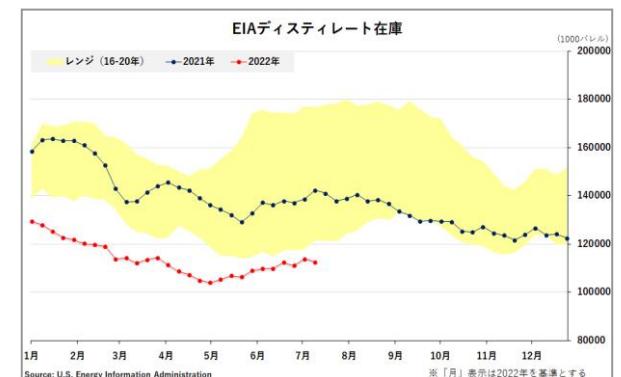
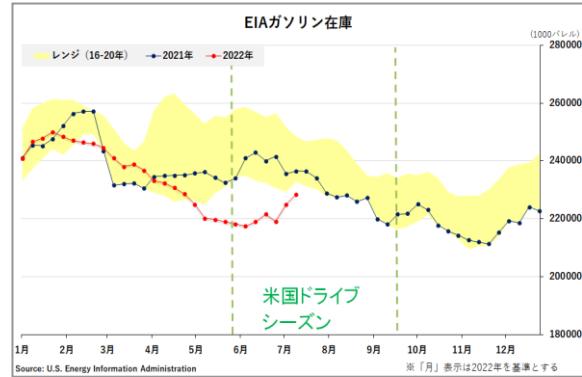
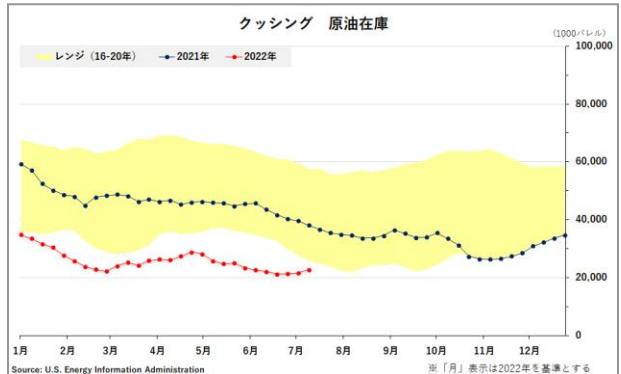
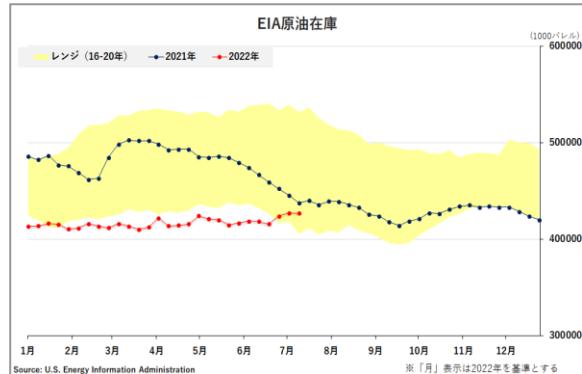


日付	金保有高(トン)	前営業日比
2022/7/22	1005.87	±0
2022/7/21	1005.87	±0
2022/7/20	1005.87	-3.19
2022/7/19	1009.06	±0
2022/7/18	1009.06	-5.23
2022/7/15	1014.29	-2.60
2022/7/14	1016.89	-2.90



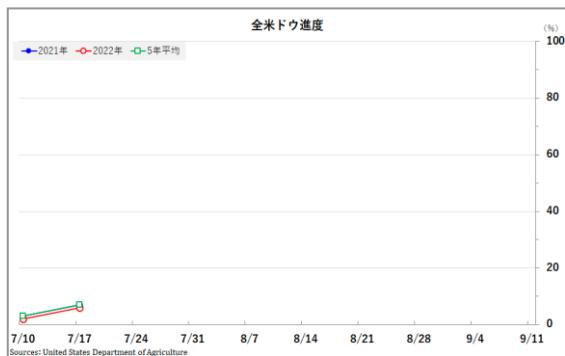
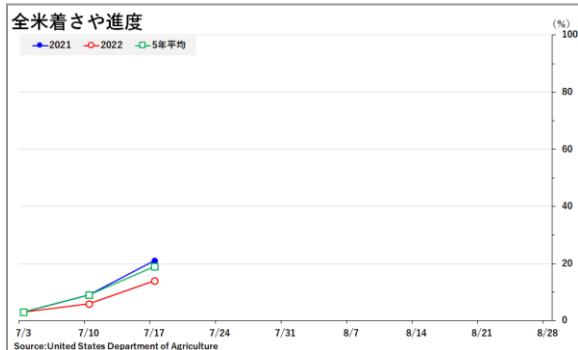
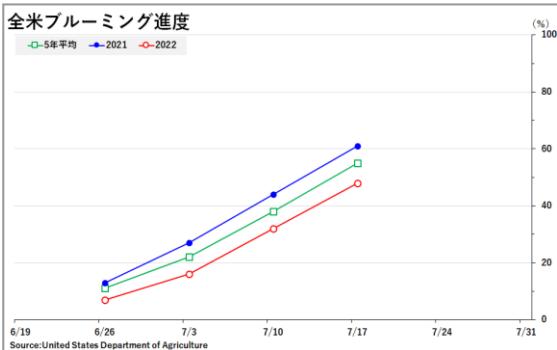
日付	白金保有高(キログラム)	前営業日比
2022/7/22	74,533.04	±0
2022/7/21	74,533.04	-0.12
2022/7/20	74,533.16	-215.02
2022/7/19	74,748.18	-90.14
2022/7/18	74,838.32	-34.12
2022/7/15	74,872.44	±0
2022/7/14	74,872.44	-217.41

【EIA在庫】

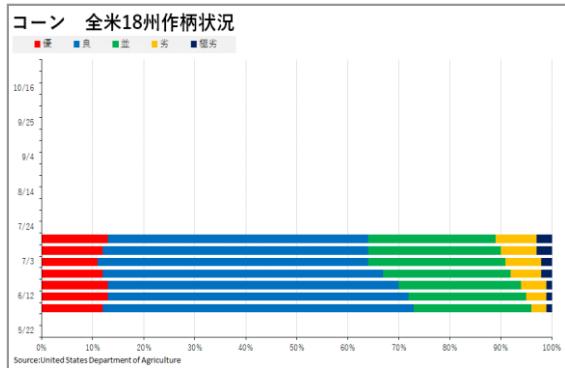
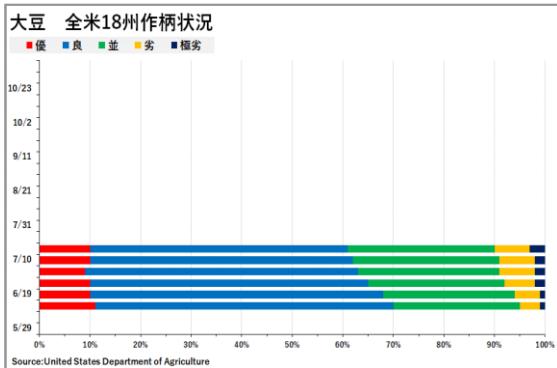


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

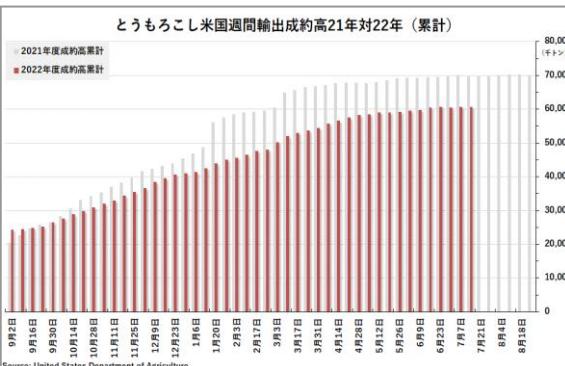
【USDA生育進捗(大豆・コーン)】



【USDA作柄(大豆・コーン)】



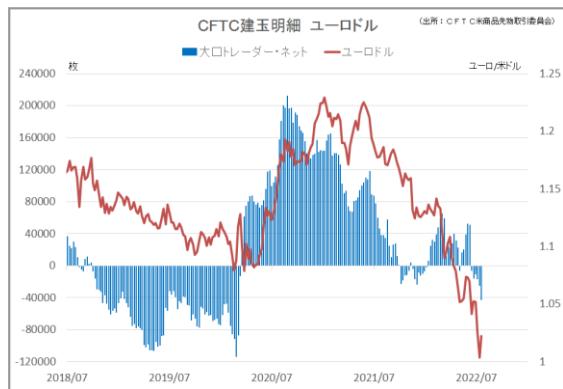
【週間輸出成約高(大豆・コーン)】



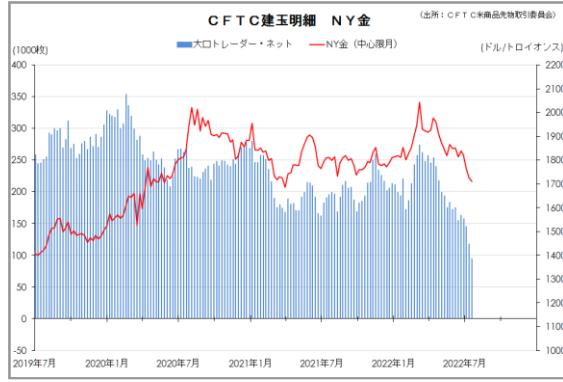
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

[CFTC建玉明細]

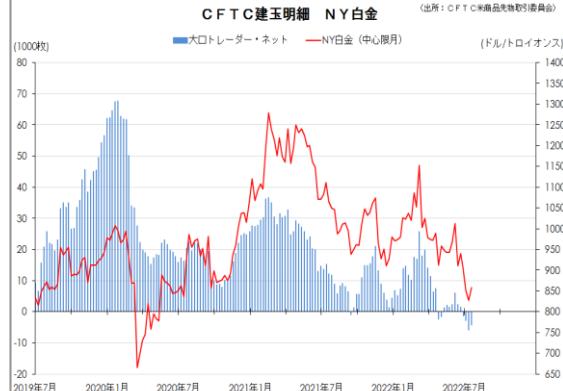

ドル円				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/6/21	35,864	94,318	-58,454	136.61
2022/6/28	36,462	89,032	-52,570	136.12
2022/7/5	38,660	93,105	-54,445	135.87
2022/7/12	35,533	95,531	-59,998	136.86
2022/7/19	42,880	102,105	-59,225	138.18
前週比	7,347	6,574	773	1.32



ユーロドル				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/6/21	195,554	211,159	-15,605	1.0525
2022/6/28	189,414	200,010	-10,596	1.0518
2022/7/5	197,138	213,990	-16,852	1.0266
2022/7/12	197,240	222,484	-25,244	1.0036
2022/7/19	195,875	238,620	-42,745	1.0224
前週比	-1,365	16,136	-17,501	0.0188

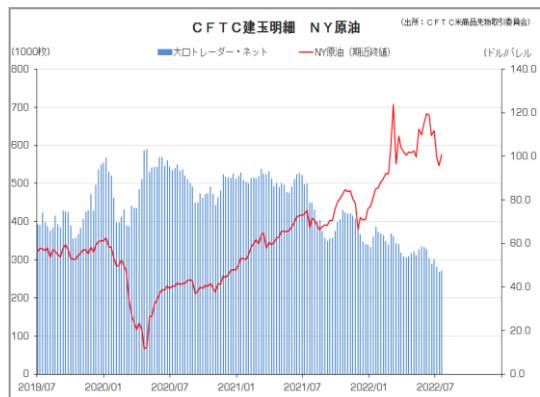


NY金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/6/21	268,119	104,832	163,287	1838.8
2022/6/28	268,712	111,019	157,693	1821.2
2022/7/5	267,806	122,146	145,660	1763.9
2022/7/12	251,126	133,005	118,121	1724.8
2022/7/19	241,004	146,049	94,955	1710.7
前週比	-10,122	13,044	-23,166	-14.1

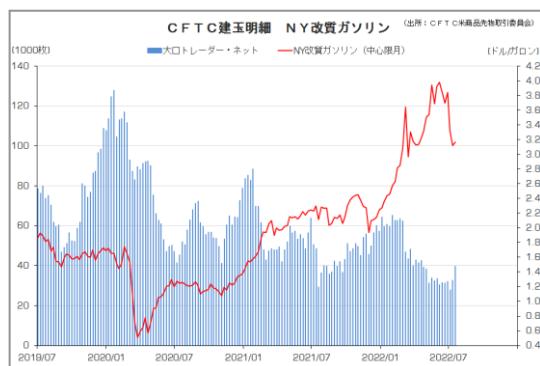


NY白金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/6/21	25,676	24,185	1,491	939.5
2022/6/28	28,451	29,757	-1,306	905.6
2022/7/5	31,920	34,654	-2,734	850.7
2022/7/12	32,580	38,491	-5,911	828.1
2022/7/19	32,960	37,242	-4,282	858.9
前週比	380	-1,249	1,629	30.8

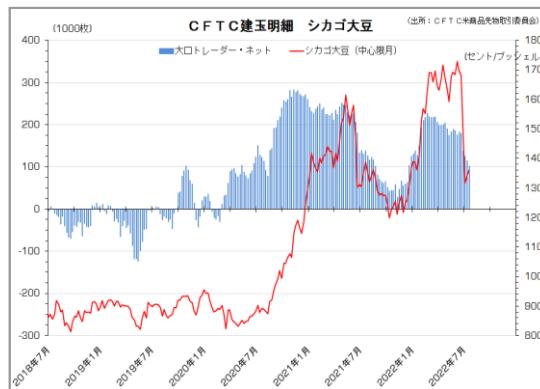
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

[CFTC建玉明細]


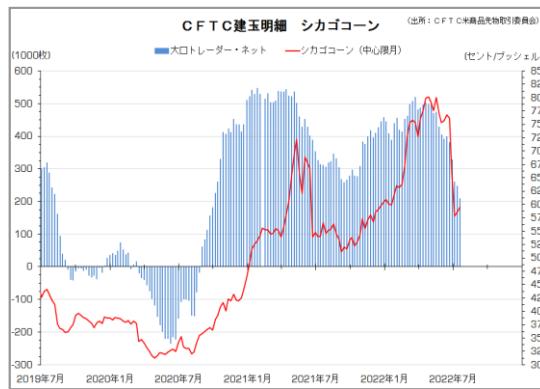
日付	大口投機玉		期近終値
	ロング	ショート	
2022/6/21	388,496	98,994	289,502
2022/6/28	396,046	96,354	299,692
2022/7/5	394,943	114,420	280,523
2022/7/12	375,155	106,827	268,328
2022/7/19	374,677	103,586	271,091
前週比	-478	-3,241	2,763
			4.90



日付	大口投機玉		期近終値
	ロング	ショート	
2022/6/21	75,835	44,428	31,407
2022/6/28	76,657	44,558	32,099
2022/7/5	72,955	44,934	28,021
2022/7/12	69,876	37,134	32,742
2022/7/19	72,688	32,872	39,816
前週比	2,812	-4,262	7,074
			0.0504



日付	大口投機玉		中心限月 終値
	ロング	ショート	
2022/6/21	226,191	47,812	178,379
2022/6/28	191,380	54,187	137,193
2022/7/5	190,571	65,080	125,491
2022/7/12	171,610	56,491	115,119
2022/7/19	159,262	56,669	102,593
前週比	-12,348	178	-12,526
			15.25



日付	大口投機玉		中心限月 終値
	ロング	ショート	
2022/6/21	504,174	124,005	380,169
2022/6/28	433,710	105,608	328,102
2022/7/5	395,713	135,008	260,705
2022/7/12	384,324	137,168	247,156
2022/7/19	358,478	148,538	209,940
前週比	-25,846	11,370	-37,216
			8.75

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【留意事項】

当社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等> 日産証券株式会社（〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町1-38-11）

関東財務局長（金商）第131号 金融商品取引業者 商品先物取引業者

<加入協会> 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般財団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、当社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いします。